

生活リハビリテーションセンターだより

研修会報告

令和5年度 堺市高次脳機能障害及びその関連障害に対する支援普及事業

第3回研修会

「行動障害の理解と支援

～発達障害・高次脳機能障害から認知障害まで～

10月15日(日)、『令和5年度 堺市高次脳機能障害及びその関連障害に対する支援普及事業 第3回研修会』を開催しました。



李クリニック
院長 李 利彦先生

第1部は、精神科医である李クリニック院長 李 利彦先生を講師にお迎えし、「その行動には理由がある～行動と認知のかかわり～」と題し、高次脳機能障害の基礎について分かりやすくご講演をいただきました。

なかでも高次脳機能障害の症状は様々であり症状の背景を理解することや、障害を一つの個性として捉えてサポートをしていくことの大切さについてお話をいただきました。

第2部では、「困っているのはだれ?～それぞれの支援者の立場から考える～」と題し、当センター増田所長を座長にパネルディスカッションを行いました。パネラーとして登壇いただいた発達障害者支援センター「アプリコット堺」の中條氏、小規模多機能ホーム「りーどけあ」の阪田氏、さらに当センターの岩崎氏からそれぞれの立場や分野での行動障害についての話と李先生か



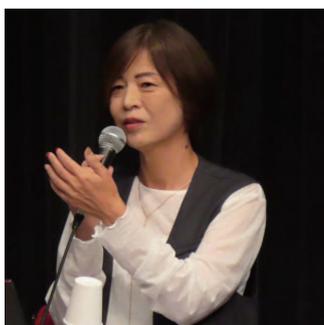
らのコメント、さらにパネラー同士の意見交換などを織り交ぜながらのパネルディスカッションとなりました。それぞれの分野で行動障害は支援課題として取り上げられており、仮説を立ててチームでアプローチを行うことやご家族へのサポートの重要性など共通することの多さを確認することができました。

また、ご参加者いただいた方から「障害を個性として受け止めることの大切さ」や「チーム支援の重要性」などについての感想が多く寄せられました。

当事者、ご家族が安心して地域生活を送ることができるよう分野を超えた支援者のネットワークで社会全体を支えていけるように高次脳機能障害支援拠点機関としての役割を改めて感じた研修会となりました。



発達障害者支援センター
「アプリコット堺」
中條氏



小規模多機能ホーム
「りーどけあ」
阪田氏



第4回研修会

「明日から使える!失語症の基礎知識とコミュニケーションの工夫」

2月21日(水)、『令和5年度 堺市高次脳機能障害及びその関連障害に対する支援普及事業 第4回研修会』を開催しました。大阪保健医療大学 言語聴覚専攻科教授の大西環氏を講師にお迎えし、失語症についての基礎から日々の支援に活用できる具体的な対応方法までをわかりやすくご講義いただきました。今回は支援者だけでなく、当事者やご家族の参加もありました。

第1部では、失語症の基礎知識として、言語にかかわる「読む・書く・聞く・話す」のすべての言語機能が低下するということや、ほかの言語障害との違いについての解説の後、実際に失語症がある方の会話場面の動画をもとに失語症の症状について詳しくご説明いただきました。

第2部では、当センター言語聴覚士の権氏と大西氏の2人のロールプレイを見ながら、コミュニケーションのとり方や工夫、活用できるツールなどについてわかりやすく解説していただきました。失語症のある方と様々な手段を活用して理解しあえることや、コミュニケーションをお互いに楽しめることが大切だと改めて感じた研修会となりました。



大阪保健医療大学
言語聴覚専攻科教授
大西 環教授



当センター
言語聴覚士
権氏

この研修会を開催するにあたり、失語症のある当センターのご利用者及び訓練を終了された方々に動画撮影のご協力をいただきましたことを、改めて心より感謝申し上げます。

今回の研修会によって、失語症についての理解が一層深まり、家庭や支援の場で失語症のある当事者がコミュニケーションをあきらめてしまうことが少しでも減ることに繋がればと思っています。



新春交流会

利用者様と訓練を卒業された方の交流の場として、毎年恒例となっている「新春交流会」を1月19日(金)に開催しました。

第1部 ポッチャ大会

第1部では、ポッチャ大会を行いました。初めてポッチャをする方も経験者からアドバイスを受けながら上手に投球されていました。また、最後の1球で逆転するような場面もあり、白熱した戦いが繰り広げられ、初めて顔を合わせたチームメンバー同士で一喜一憂しながら楽しんでいる様子が伺えました。



第2部 当事者交流会

第2部の当事者交流会では、8人程度のグループに分かれ、「生活リハを利用してためになったこと」「嫌いなプログラム」などのテーマに沿って話し合いをしました。リハビリをする中で、できるようになったことや、つらいプログラムだけども必要性があることなど、利用者様同士が共感し合いながらお話しされている姿が印象的でした。

第1部、2部の間、ご家族は家族懇談会に参加していただきました。受傷後の変化に対する家族としての関わり方や、今後の不安などについてご家族同士で共感したり、先輩ご家族からのアドバイスを受けたりと、話が尽きませんでした。

第3部 体験談

第3部では、訓練を終了し復職した方に、受傷から復職、そして現在に至るまでの経験をお話ししていただきました。リハビリをする中で、見落としや物を置き忘れるなどの自分が起こしやすいミスに気づき、苦戦しながらも対処方法を身につけたことや、満員電車を避けた病前とは違う通勤経路の練習をし、復職の準備を段階的に進めていかれた体験談は現在リハビリをされている方々の今後の参考になる貴重なお話でした。



今後も利用者様、ご家族の交流の場がもてるような機会を提供していきたいと思っております。

月替わりプログラムのご紹介

自動車運転前の気づき向上プログラム

8月と11月に『自動車運転前の気づき向上プログラム』を実施しました。これは、自動車運転の再開を希望する高次脳機能障害のある方で、医師から運転技能評価を受けるよう指示されている利用者の方を対象とした、全4回のプログラムです。プログラムでは、「高次脳機能障害が運転にどのように影響するかを考え、運転を再開する上で気を付けることを明確にする」ということを目標としました。参加者同士のディスカッションでは「脳の病気をした後に運転するには、これまでよりスピードを落とした方が良い」という意見が多く出ました。ドライビングシミュレーターでは、「スピードを落とさないといけないと分かっているのに、これがなかなか難しい」という感想が聞かれました。また、自分が実施したシミュレーターのリプレイ動画を見て、「左折のときは左後方に注意をしっかりと向けないといけな

い」とより具体的なポイントを挙げる方もいました。計4回全てのプログラム終了時には、「運転技能評価の前に、自分の障害をふまえて気を付けるべき点が分かって良かった」などの声を頂きました。このプログラムは定期的開催する予定です。ご興味のある方は、ぜひスタッフにお声がけください。



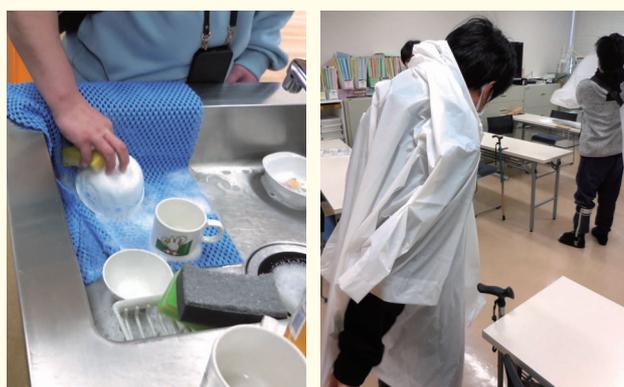
片手での作業プログラム

2月は片麻痺のある方を対象として、日常生活の様々な作業を片手でやるというプログラムを実施しました。両手ならば簡単にできることでも、片手となると難しい作業はたくさんあります。例えば、ごみ袋を閉じる作業もそのひとつです。片手でもなんとか袋の口をしぼることはできるのですが、今回は実用的な工夫のひとつとして、養生テープを使用し袋の口を閉じる方法を練習しました。テープを片手で切る動作にも少しコツがいます。何回か練習を行うとスムーズにテープを切れるようになり、うまくごみ袋を閉じることができました。その他、食器洗いや雨の日を想定したレインポンチョの着脱など、様々な作業にチャレンジしていただきました。

プログラムの中では、利用者様同士が普段ご自身で行っている便利な方法を教え合う様子がしばしばみられ、改めてグループ訓練の良さを実感しました。参加された方からは「良い方法を知ることができて良かった。」「実生活で使っていきたい。」などの感想が聞かれました。

今後も、日々の生活に役立つ練習の場や情報交換

の機会を提供していけるよう、プログラムの充実をはかっていきたいと思っております。



堺市総合防災センター研修

2月に健康福祉プラザ指定管理者（堺市社会福祉事業団・堺障害者団体連合会・フィットネス21事業団 共同事業体）の職員研修として、堺市総合防災センターの災害ツアーに参加してきました。

震度7レベルの地震体験や消火器の使い方、火災により煙で視界が遮られている中を非常口まで移動するなどの体験を行いました。また、心肺蘇生やAEDの使用方法についても学ぶことができました。

今年の元旦には能登半島地震があり、今後、南海トラフ地震が30年以内に70～80%と非常に高い確率で発生すると言われていています。利用者様が訓練参加時に被災し、帰宅困難者になったり避難所生活を強いられる可能性も考えられます。

平時から災害時に必要な物品や非常食などの備えをすることや、災害時にどのように行動する必要があるのかを改めて考える良い機会となりました。



堺市立健康福祉プラザ 生活リハビリテーションセンター

〒590-0808 堺市堺区旭ヶ丘中町4丁3番1号 堺市立健康福祉プラザ内 4F

TEL.072-275-5019 FAX.072-243-0202

■開館時間 9:00～17:30 ■休館日 土・日・祝日・年末年始(12/29～1/3)

<http://www.sakai-kfp.info/>

バックナンバーはこちらから⇒

